

## [普及事項]

新技術名：ニホンナシの短果枝に対するジベレリンペーストの果台枝伸長効果（平成20年）

研究機関名 果樹試験場天王分場班  
担当者 長澤 正士

## [要約]

ニホンナシの短果枝基部にジベレリンペースト100mgを満開7～14日後に塗布すると、果台枝が伸長し、側枝候補枝として活用できる。

## [ねらい]

ニホンナシ栽培において苗木を仕立てる際に、側枝を確保しつつ樹冠を拡大していくことが重要であるが、側枝となる新梢が必要な部位に発出せずに短果枝化する現象（図1）がよくみられる。また、成木では側枝の若返りを図る場合、側枝基部のしわを残して切除することにより、不定芽新梢の発出を図るが、発出率が低率であり、さらに高樹齢化も伴い、枝のはげ上がりが問題となる。このため、主枝および亜主枝に着生した短果枝から30cm以上伸長する果台枝をジベレリンペーストの塗布処理により発出させる技術を確立する。

## [技術の内容・特徴]

1. ‘南水’、‘かほり’、‘幸水’について、満開7～14日の間に摘花（果）し、ジベレリンペーストを短果枝基部（図2）に塗布すると、果台枝の伸長を促すことができる。その結果、側枝育成に必要な30cm以上の新梢（果台枝）が高頻度で確保される（図1）。
2. ‘南水’は、処理時期が早いと果台枝の伸長も旺盛である（図1）。

## [普及対象範囲]

県内ニホンナシ生産地

## [普及・参考上の留意事項]

1. ジベレリンペーストはチューブから3mm押し出すと約100mgとなる。
2. ジベレリンペーストは、弱小な短果枝に塗布したり過剰に塗布すると、新梢が枯れることがあるので注意する。
3. ジベレリンペーストを塗布した部位は、肥厚化するため、枝がかたい品種（‘南水’、‘あきづき’等）は、落葉期前に誘引を実施する（図3）。

[具体的なデータ等]



図1 主枝先端の短果枝化の事例（あきづき）

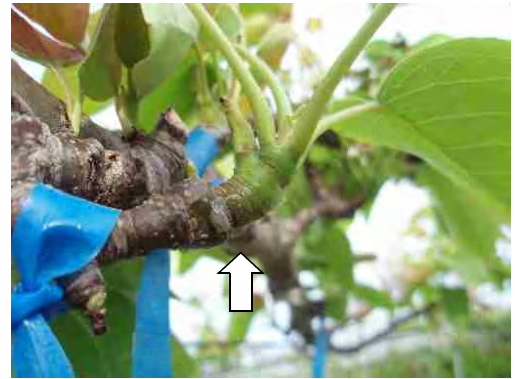


図2 処理部位

表1 ニホンナシの短果枝に対するジベレリンペーストの果台枝伸長効果

品種	処理日の満開後日数	ジベレリンペースト処理			無処理		
		調査果台枝数	平均果台枝長 (cm)	30cm以上伸長した果台枝の割合 (%)	調査果台枝数	平均果台枝長 (cm)	30cm以上伸長した果台枝の割合 (%)
南水	7	10	57.4	63.6	13	11.7	7.7
南水	14	11	35.9	63.6	9	10.6	11.1
かほり	7	10	74.7	100	10	13.6	10.0
幸水	9	10	42.5	70.0	9	22.7	33.3

※満開期：‘南水’、‘かほり’ 4月24日、‘幸水’ 4月29日

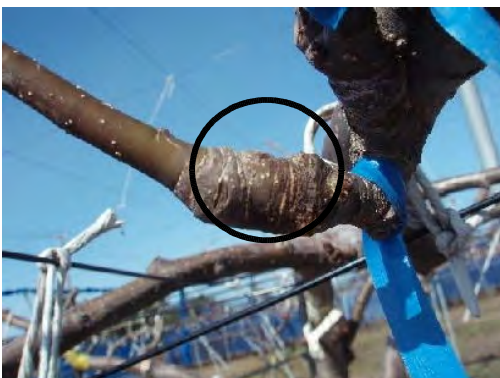


図3 処理部の肥厚

[発表文献等]

なし